普及活動情勢報告（平成３１年４月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

早くておいしい米づくりを目指して！　～よさ恋美人栽培実証ほ田植え～

田植えの様子

3 月 28 日、水稲新品種「よさ恋美人」の栽培実証ほの田植えを行いました。「よさ恋美人」は極早生品種で 7 月中に有利に販売できるというメリットがありますが、早いだけではなく、おいしい米として販売することを目指して施肥量等の検討をする予定にしています。

管内では JA 出資型法人の㈱土佐くろしお村村営みのりを中心に栽培に取り組んでいます。

農業改良普及課では「よさ恋美人」が、早くておいしい米として消費者の皆さまに継続して購入してもらえる米になるようバックアップをしていきます。

春先の増収・次作へ向けて　～ハウスシシトウ勉強会の開催～

勉強会の様子

3月29日、ＪＡ土佐くろしお本所でハウスししとう部会の勉強会が行われました。生産者15人が参加し、JA営農指導課・農業改良普及課と共に今後の栽培管理等を確認しました。

農業改良普及課からは、今後のかん水管理や環境測定データを利用した湿度管理、また次作へ向けての土作りや新品種について情報提供しました。生産者からは、栽培管理や試験品種の病害への抵抗性について質問があり、自身の栽培管理の確認や、次作へ向けて新品種の導入を検討しているようでした。

農業改良普及課は今後もJAと協力して、巡回や部会活動を通して生産者へ栽培管理や新品種について情報提供していきます。

ＩＰＭ技術の確立を目指して！　～クジャクアスター現地検討会の開催～

現地検討会の様子

4 月 17 日、農業改良普及課ではクジャクアスターの現地検討会を開催しました。

現在、須崎市のクジャクアスター農家２戸で農業技術センターの現地試験として、ＩＰＭ（天敵利用）の検討を行っています。

検討会では、薬剤防除の効果や、散布の仕方等が話題になりました。クジャクアスターでも害虫に効果のある農薬は限られてきており、天敵等の利用技術の確立が求められています。農業振興センターとしては農業技術センターと協力してＩＰＭ技術の確立を図っていく予定です。

いよいよ津野山地域の園芸がはじまる！　～関係機関で苗の生育状況を確認～

生育を確認中

津野山でも春の兆しを感じてきました。いよいよ、津野山地域の園芸が本格的に始まろうとしています。そこで、3 月 8 日及び 28 日に、ＪＡ営農指導員・振興センター職員を中心に、米ナス・小ナス・土佐甘とう・シシトウ苗の生育確認をするため、県内 3 つの種苗会社の育苗ハウスを訪ねました。種苗会社の担当者からの説明を受け、現状の苗生育を確認し、希望する苗の姿を関係者で共有しました。

今後、農業改良普及課は、定植直後から、ＪＡとの現地巡回等を通じて栽培管理の徹底を促し、各品目のスムーズな生育を目指して取り組みます。

消費者の皆さまに安心を届ける！　～農薬適正使用の講習会～

総会の様子

3月28日、約130名の生産者が集まり、すさき黒潮市場（マルナカ須崎店）の生産者総会が開催されました。

事務局から、作期の分散や栽培品目の多様化を促すなどの提案がありました。農業改良普及課からは、お客様に安全安心な野菜や果物を楽しんでいただくことと、お客様に買っていただくことで生産者の喜びにつなげることを目的に、多種多様な野菜を栽培するにあたっての適切な農薬使用の解説を行い、事務局からは、このような勉強の場を年に何回か開催したいとの要請がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して、直販所向け野菜の栽培支援と農薬の適正使用を啓発していきます。

一番茶の摘採始まる　～津野山茶生産組合桂地区座談会の開催～

座談会の様子

4月15日、津野町桂集会場にて茶生産農家12名が参加して平成31年度の一番茶の摘採計画が検討されました。

桂地区や布施ヶ坂周辺は、津野山地域の中でも茶葉の生育が早く、4月17日時点で3～4葉期に達している園もみられます。一部の園では霜害の発生もあったようですが、生育は概ね順調に推移しています。

JA高知県津野山営農センターから茶工場の操業を4月20日としたいとの提案があり、生産者で協議した結果、3戸から4戸が摘採可能であることを確認しました。

農業改良普及課からは、平成31年度に使用する農薬一覧の改訂と中切り茶園における病害虫の発生状況及び防除の要点を説明し、適期防除を呼びかけました。

出荷に向けた安全点検　～加工用ワサビ講習会の開催～

高知県版ＧＡＰへの取組み

4月3日、JA高知県高西地区津野山営農経済センター加工用ワサビ生産者5名を対象に、現地講習会が開催されました。

今作は大型苗の栽培に取り組み、生育も概ね順調、昨年以上の収量が期待されています。4月8日からの出荷に備え、ベテラン生産者の収穫・調製作業を見ながら、全員で意見を出し合って要点を確認しました。農業改良普及課からは、春先の栽培管理の説明と高知県版ＧＡＰの点検を行いました。ＧＡＰの点検項目は多いものの、生産者が必要性を認識し、積極的に取り組んでいただけています。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して加工用ワサビの安定生産と増収のための支援を行っていきます。

ナス産地としての継続を目指して　～ナス部会の平成 31 年度新体制が決まりました～

協議中の様子

4月12日、ＪＡ高知県高西地区津野山営農経済センターで、平成30年度のナス部会が開催されました。当日は米ナス農家9名、小ナス農家4名が参加し、熱心な協議がされました。

農業改良普及課は、農作業をするにあたって毎日・その都度注意すべきポイントをまとめたポスターを配り、ＧＡＰの取り組みの必要性について説明しました。当地域は過去にはＩＳＯ14001に取り組み、今も圃場点検を続けるなど、非常に意識の高い地域です。このような良い取り組みが今後も続くよう、農業改良普及課は支援を続けます。